

優秀なエンジニア確保でハノイ進出を現実のものに (株式会社 テクニカ)

会社概要(平成24年10月現在)

- 所在地:東京都西多摩郡瑞穂町長岡3-7-1
- 代表者:代表取締役 比留間 良太
- 資本金:3,000万円
- 売上高:15億円
- 従業員数:35名
- URL:<http://www.tch2200.co.jp/company/index.html/>

①事業概要

<半導体製造装置の基盤設計>

半導体製造装置の基板設計等を行っているが、製品の品質上、顧客と身近に接して開発・製造を行う業務体制を敷いている。

そのため、その最終製品や製造に使用する部品は、世界各国と密接に関係するにもかかわらず、社内の国際化は遅れていた。また、近年同社では日本国内の優秀な技術系人材の採用が困難な状況にあった。さらに加速するであろう国際化に対応できる本社社内の人材育成・業務体制の強化、海外での優秀なエンジニアの確保を目的に海外への進出を数年前より考え始めていた。

②海外展開概要

<東南アジアへの進出>

最初のハノイ訪問は、東京都中小企業振興公社にて平成17年に行われたベトナム経済視察団のメンバーとしてであった。それまで中国やインドへの視察を行っていたが、両国とも進出の決め手に欠けていた。視察で訪問した日本語学校で日本語を学習しているベトナム人と会い、日本語の習得の早さと目の輝きが印象的であり、直感的にベトナムで海外展開できるのではないかと感じた。しかし、当時のハノイには、弱電系の設計やソフト開発を行っている企業が極めて少なく、また、インフラの遅れなど進出の決め手に欠けていた。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

ハノイの視察から戻り中小機構の国際化支援アドバイス制度を知る。平成17年にアドバイスをもらうとともに具体的なビジネスモデルの概略を明確にすることが出来た。そして平成18年に現地同行アドバイス制度を活用し、ハノイに向かった。ライセンス取得のスキームや日本で研修を行うための方法などの情報を得て、具体的に進出のテクニカルな部分での実現性が見えてきた。その決め手となったのは、視察の際訪れた機械設計を行っている日系企業への訪問であった。

現地同行アドバイス制度を活用することにより、的確なアドバイスや効率的な視察が行えたことにより、ライセンス取得、人材採用など具体性が見えた。

④今後の事業展開について

事業開始より5年が経過し、ベトナムでの基板設計業務の内需の限界を感じている。現在は、基板設計業務以外での内需をターゲットとしたビジネスの柱を模索中。

平成24年12月にタイ・バンコクで、新会社を設立予定。新会社では、日本で製造した製品をタイに工場を持つ既存顧客へその製品を供給する流通業務を行い、1年後を目途に、製造を移管する予定。

ベトナムでの設計業務、タイでの製造業務を組み合わせ、タイにおける工場自動化の流れをターゲットとし、特注FA機器の需要を探る。



(平成24年10月現在)

データ出所:(独)中小企業基盤整備機構